

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 25 年度

事業所番号	2775002542		
法人名	社会福祉法人 由寿会		
事業所名	グループホーム香寿庵		
所在地	東大阪市稲田新町1-10-1		
自己評価作成日	平成 25年 12月 1日	評価結果市町村受理日	平成 26年 2月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/27/index_php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyvosyoCd=2775002542-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 1月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が自宅での生活の延長で香寿庵でも出来ない事を職員が援助を行いながら生活して頂き、家事全般を出来ることを見極めその人にあった手伝いをして頂き。多人数での食事や気分転換で外食や場所を変え楽しく過ごして頂いています。併設のデイサービス・特別養護老人ホームなどの行事にも参加し交流の場としても楽しまれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で活躍し、16年の歴史を持つ社会福祉法人が運営するグループホームです。法人理事長は医師で「高齢者が終の棲家で安心して暮らせるように」との思いから、高齢者総合サービスセンターを創設し、地域包括支援センター、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、在宅事業全般を運営しています。当ホームは1ユニット9名の家庭的で、自由な雰囲気を感じられるホームです。利用者は明るく活発で、自らの意見をしっかりと言える状況です。同法人管理栄養士が献立を作り、バランスの良い美味しい食事を提供しています。利用者はホームクッキングでおやつ作りをしたり、外食を楽しんだりしています。職員は「ピーちゃんだより」を毎月発行し、写真を掲載するなどして利用者の暮らしぶりを分かりやすく家族等に報告しています。隣接する特養と連携し、診療所の活用や災害対策の強化、デイサービス利用者との交流、特養で開設する居酒屋や喫茶の利用等、楽しみながら地域との連携も進めています。職員は熱心で、法人のバックアップもあることから、今後もさらにサービス向上が期待できる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	香寿庵独自の目標を作成しており、CW会議でも話をしている。いつでも見られるようフロアーに掲示し、理念を共有している。	理念として、「1. ご利用者様の人権尊重・意思尊重を大切に 2. ご利用者様、職員共によりよい環境であるように 3. 積極的熱心な最新・最良の情報入手と取り組み 4. 民主的柔軟な施設運営 5. 地域に密着した施設であるように」を掲げています。ホームでは理念をもとに、利用者が、その人らしい、あたりまえの生活が送れるよう「健やかで安らぎのある暮らし、ゆったりと時が過ごせる自由な暮らし、自分らしさや誇りが保たれた暮らし、生活の張り合いや喜びがある暮らし、仲間と一緒に過ごす楽しさのある暮らし、地域に開かれた地域と共にある暮らし」の6つの暮らしの実現を運営目標として掲げています。管理者は、その実現に向けて、職員とともに日々のケアに取り組んでいます。また、朝礼時には「職員の心得」を唱和し、より質の高いサービスの提供に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域開催の祭り・盆踊りの参加や施設開催の秋祭り・居酒屋庵に地域の人々やご家族様・ご利用者様と共に参加を行い交流している。	職員は利用者と共に、地域行事や併設するデイサービス行事等へ積極的に参加して、地域との交流を図っています。ホーム主催のクリスマス会では、運営推進会議のメンバーである民生委員が、大正琴ボランティアとして来訪し、職員の手作りケーキと一緒に味わいながら利用者・家族とともに楽しい時間を過ごしました。また、運営推進会議のメンバー・地域住民・併設する特養職員とともに消防訓練を実施し、地域との連携を進めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症の事を説明させて頂き、少しでも地域に出て行く機会を作る努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ご利用者様の日常生活を説明し、生活上のサービスやリスクを伝えて、色々な意見を出して頂きサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、開催規程を作成し、2カ月に1回開催しています。メンバー構成は、利用者・利用者家族・地域住民代表・地域包括支援センター職員です。会議では、ホームにおける利用者の状況や提供するサービスとそのリスク、行事活動等、詳細に報告を行っています。参加者からの意見や要望、助言を得て、サービス向上に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括の職員に運営推進会議に参加して頂いている。会議の内容を記録し市の担当者に提出している。	市の担当者とは何かあれば連絡をして情報交換をしたり、助言を得たりしています。また、運営推進会議の記録を届けて意見をもらったり、事業所連絡会議の際に面談する機会を持ったりしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人では身体拘束廃止宣言をしており、身体拘束委員を発足させ、拘束の事例がなくても話し合いを行い、職員も理解をしている。香寿庵での課題として、鍵は防犯の関係上施錠している。	重要事項説明書に「身体拘束等の禁止」を明記し、身体拘束廃止宣言を行い職員に徹底しています。職員は身体拘束とはどのようなことを理解し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。玄関の鍵は防犯上の理由で施錠をしていますが、車イス等で出かける際に活用している特養との連絡通路出入り口は開錠しています。利用者が出かけるそぶりをされる場合には、職員が付き添い外出するなどの支援をしています。	防犯上の課題については、チャイムやブザー等を活用し、職員等に注意喚起を行うなどの工夫が望まれます。今後は、日中の時間帯は玄関に施錠せず、気軽に入出りできる環境づくりが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設実施の研修に参加し、虐待を見逃さないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加し、ご家族様に話をし、成年後見制度を利用されているご利用者様もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約の時、また改定の際は十分な説明を行い、少しでも不安のない生活を送って頂けるように図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスの設置やご利用者様・ご家族様との会話の中で色々な意見を聞いて、CW会議や運営推進会議で反映させている。	家族の来訪時には、意見や要望を聞くように努めています。苦情ボックスを設置し、意見が出しやすい雰囲気づくりに努めています。運営推進会議に家族参加を呼びかけて、出席者への意見交換の時間等を設けています。毎月「ピーちゃん便り」を発行し、利用者家族に送付して、ホームでの利用者の様子や出来事、予定などをお知らせしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はCW会議にて、直接職員の意見や提案を聞く事に努め、反映できているように努めている。また代表者は、役職者会議などを通して参加した職員の意見などを聞く機会を設け反映している。	管理者は、日頃から職員の意見や提案を聞くよう努めています。共通する課題や提案については職員会議で取り上げ、業務改善につなげるなど職員の声が反映できるようにしています。また、アンケートを通じて職員の意見を聞いたり、課題を把握したりして、職員が意欲を持って働けるように努めています。法人代表者は役職会議等で職員の意見を聞き、運営に反映するようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、職員のやりがいにつながるよう職員の努力や実績を評価できる機会を設けたり、アンケートでの調査や各会議での職員の意見を吸い上げる機会を設け、職員が意欲を持って働けるような環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日本認知症グループホーム協会や大阪認知症グループホーム協議会への加入にて、年間の施設内研修計画も立て、外部研修にも参加行い、各資格を取得できるよう、セミナー等の案内をお知らせすることで、働きながらトレーニングできるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	21年度より、地域密サービスの東大阪市介護保険事業者連絡会にも参加し、同業者との交流を深めながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所されたご利用者様は環境の変化に対応出来なくて不安な様子が現れる。声掛けや側に寄り添い話の傾聴等を行い、安心して頂くよう努めている。また、アセスメントシートに記入している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前と入所時に色々な説明を行い、面会時に色々とお話をしていき、信頼関係が出来るよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様の様子観察やご家族様の話の傾聴等で必要としている支援を見極められるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に盛り付け・後片付けや掃除等を役割を持って頂き、レクの参加を通して一緒に過ごし、支え合う関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、一緒に支えて行きましようとお伝え、ご利用者様の受診に行かせて下さり、本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域近所の入居者が増え、ご友人や親せきの面会も多く、また、ご家族様が外出に連れていって下さる。(昔の友人との食事・受診等)	友人が来訪し、共に外食へ出かけたリ、かかりつけの医療機関へ受診したり、隣接する特養で行われているデイサービスに参加して顔見知りの方と話ができるようにするなど、馴染みの関係を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の価値観の違いで衝突(口論)が多いが、職員が中に入り関わりを持つ事で、孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたご利用者様の面会に行かせて頂いてご家族様と話し合い、退院後の不安の解消に繋がるように、他のサービスを伝えフォローしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様に安心した生活を送って頂くには、出来る事や出来ない事の把握、また、話の中での希望や思いを探って感じ取り、CW会議にて検討している。	職員は、日常の会話の中で利用者の思いや願いを聞き取り、支援に活かしています。言葉で意向を聞き取りにくい場合には、表情やそぶりで理解するようにしています。利用者間で意見の相違がある場合には、職員が中に入り、双方の意見を十分に聞いて、関係がスムーズにいくよう調整しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様の話の傾聴で把握していき、センター方式に記入を行うよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子を記入していき、一人ひとりの心身の状態を見極め、総合的に把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご利用者様の近況報告を面会時や電話で伝え、ケアプランの変更・更新時にご家族様も交え、職員共にケアの在り方について話し合っている。また、医療的ケアについては、Dr. も参加で現状に即した介護計画を作成できるよう努力している。</p>	<p>介護計画書は、24時間シートを活用して細やかにアセスメントを行い、サービス担当者会議等で話し合い、作成しています。作成時には、家族の参加を得てカンファレンスを行っています。また、必要時には医師を交えた話し合いを行うこともあります。介護計画書を踏まえた実施記録を残し、月1回のモニタリングを行い、6か月を目途に見直しをしています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>センター方式を取り入れて日々の様子を記入、また、D-5シートに気づきを書く事により、介護計画の見直しや情報の共有に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>身体的低下や認知症が進まれても、少しでも香寿庵で生活を希望されているご家族様のニーズに添えるよう、サービスを考え取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>隣の稲田公園への散歩で気分転換を図り、個別で買い物をして好きな物を選んで頂き、暮らしを楽しめるよう支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に受診されていたかかりつけ医に受診されるご利用者様もおられ、遠方のご家族様も、忙しい方や緊急時には特養併設の診療所に週3回のDr.による受診・往診が受けられ、看護師も日中勤務しており、適切な医療が受けられる。	利用者・家族の希望する医療機関で適切な医療が受けられるよう支援しています。入居前からかかりつけている医療機関に家族が付き添い受診される場合も多く、家族の都合がつかない場合や緊急時等には隣接する特養の診療所を利用することもできます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や様子観察で体調の変化に気づき、診療所の看護師と相談を行いながら、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、面会や電話を通じて病院関係者・ご家族様と情報交換を行い、関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合、ご家族様と話し合いを行い、意向を聞きながらケアをしているが、香寿庵の生活がご利用者様にとって苦痛と思われたら、他の選択肢として特養の申し込みも可能であることを伝え、その後特養入所で退所になる場合もある。</p>	<p>入居時に重度化した場合の対応について利用者・家族に説明をして話しています。重度化した場合の対応として、家族の希望で特養入所申し込みをされる場合もあります。重度化した場合には家族の意向を聞きながら、その後の対応について話し合い、希望に沿った支援をしています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時のマニュアルも備えており、CW会議などでも話し合い、また、法人の勉強会にも参加している。消防署主催の救命救急の講習を受けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の特養の職員と共に避難訓練に定期的に参加しているが、地域との協力体制までは取り組めていない。災害マニュアルを備えている。	災害時対応マニュアルに沿って、年に2回の避難訓練を行っています。そのうち1回は、消防署立会いのもとに訓練を実施しています。ホームにはスプリンクラーを設置し、隣接する特養との連携も進めています。昨年の避難訓練では運営推進会議メンバーにも参加してもらい、夜間を想定した避難訓練を行っています。訓練の様子は写真を添えて記録に残しています。災害時の備蓄については、一部の水と非常食はホーム倉庫に保管していますが、多くの食品類や水はリストを作り隣接する特養の厨房に保管し、管理については厨房を委託している業者と委託契約を交わしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	CW会議にて、ご利用者様の尊厳・言葉づかいに気を付けるよう何度も話し合っただ対応に気を付けている。	ホームでは職員の心得の一つとして接遇を重視しています。利用者一人ひとりの尊厳を守り、言葉かけや対応に配慮しています。一部聞こえにくい利用者等に、大きな声で対応することもあり、職員間で注意喚起しながら適切な対応ができるよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	手伝いやレクの参加、買い物で好きな物の購入など。自己決定が難しいご利用者様には話の傾聴などで希望を察するように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日ゆっくりとご利用者様のペースに合わせた支援をしているが、特に排泄・入浴・食事の時は注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様はご自分で服を選んでおられ、コーディネートがおかしい場合は尊厳を傷つけないように着替えて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、職員とお話をしながら一緒に食事を楽しまれる。時々、食べたい物を聞いて外食会に行っている。	隣接する特養の厨房から運ばれた、できたての物を職員が配膳しています。管理栄養士が献立を作り、食材を吟味していることもあり、バランスの良い美味しい食事を提供しています。利用者は「いつも美味しいよ」と話され、食も進んでいます。利用者は、食器洗いや片付け等に参加したり、毎月行っているホームクッキングでおやつ作りをしたりして楽しんでいます。また、利用者の希望で、和風レストランやお好み焼屋等に出かけ、外食を楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理栄養士作成の献立で給食から取り寄せ、毎食後食べた量・水分量のチェックを行い、一人ひとりの状態を考えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後・夕食後に口腔ケアをしており、出来ないご利用者様には職員が介助を行い、異常があれば歯科受診をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入していき、ご利用者様の排泄パターンを掴み、誘導や声掛けを行っている。CW会議にて、ご利用者様に合ったりハビリパンツ・パットの見直しの話し合いをしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを確認し、利用者の状況に沿った支援をしています。トイレでの排泄を基本としており、おむつ類に頼らない支援を心がけ、自立支援にも力を入れています。夜間にはポータブルトイレを活用するなど、利用者が安全に気持ちよく排泄できるよう配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操をして体を動かす事により、予防に取り組んでいる。便が出ないご利用者様は、下剤を服用されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴の施行で、希望を聞いて入浴して頂いている。入浴拒否のご利用者様には、拒否された場合は場面を変えて再び声掛けを行っている。	週に2～3回の入浴支援をしています。排泄に失敗があった場合にはシャワー浴をするなどして清潔を心がけています。季節のゆず湯や菖蒲湯等も用意して楽しんでもらっています。状況によっては隣接する特養の大浴場を活用して楽しんでもらうこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の声掛けを行い、安心して休んで頂けるよう支援を行い、不安で眠れないご利用者様には話の傾聴を行い、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カーデックスやセンター方式に服薬されている薬を記入して、服薬の誤りがないように日付を記入。新しい薬を服薬して頂く時は、症状の変化を確認するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様から趣味等を聞かせて頂き、折り紙・塗り絵・書き取り・裁縫等をご利用者様に合った楽しみ事をして頂き、また、不穏・不安になられたご利用者様には散歩に行くなどの気分転換の支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	何か気になり帰宅願望のご利用者様には一緒に散歩や買い物に行き、また、ご家族様との墓参り・外食会・特養のテラス利用で緑を感じながらの昼食、お弁当風の食事を作って食べて楽しんでいます。	利用者の希望に沿って外食をしたり、買物に出かけたり、散歩をしたりしています。隣接する特養に出かけることもありますが、最近では体調に変化があったり、利用者からの希望も少ないことから、外に出る機会が減少している状況です。	職員は外出の機会が減少していることを察知しており、今後は短時間でも外に出る機会を増やすよう検討する予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っておられるご利用者様に一緒に買い物に行き、食べたい物を購入され支払いをして頂くよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	用事のある時はご家族様と話をする機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに小物を置く事により家庭的な雰囲気になるようにしているが、特養と併設しており館内放送が聞こえる為、混乱されないように気をつけ、声掛けを行い少しでも居心地良く過ごせるような工夫をしている。	ホームはピロティ方式で2階にあり、1階は駐車場等になっています。玄関を入り、階段を上がると食堂兼居間があります。居間にはゆっくり座れるソファがあり、くつろぐことができます。ホーム内には手すりを設置していますが、階段の昇降が無理な場合には、特養に通じる出入り口を活用し、車イス等で外出することができます。ホーム内は適温に保たれ、床は清潔で床暖房を設置し、気持ち良く過ごすことができます。トイレは2カ所があり、車イスで対応できるスペースがあります。浴室は家庭的で利用者の状況に沿って手すりを付ける用意があり、安全に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の2ヶ所にソファを置くなど、一人になれる空間を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使用されていたタンス・イス・写真などを置いて、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	居室にはベッド、洗面台が備えつけられています。利用者は使い慣れた家具や鏡台、時計、ぬいぐるみ、写真、仏壇等を持ち込み、居室でも過ごしやすいう工夫をしています。室内は清掃が行き届き、清潔で空調も良く、落ち着いた雰囲気になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	香寿庵内で自立した生活を送れるよう手すり等を設置して、安全に使い勝手の良い工夫をしている。一時的に車イス使用となった場合、併設の特養のエレベーターを使用し、出来るだけ長く自立した生活を送れるよう支援している。		